

田原市立田原福祉専門学校同窓会機関誌

た つ ぶ く だより

No. 12

編集発行 平成 21 年 3 月 1 日
田原福祉専門学校同窓会
会長 松原 宣子



「新任挨拶」



学校長 鈴木 國家

新しく校長を拜命した鈴木です。よろしく申し上げます。今、全国的にも養成校の生徒数が急減する中、厳粛な気持ちでお引き受けいたしました。年度当初、市長さん並びに市議会から「今後本校がどうあるべきか検討すべし」との要請を受け、本校の運営協議会を立ち上げ、4回の協議を経て報告書を作成、12月答申いたしました。報告書の結論は、今後さらに深刻化する高齢化社会や本市をとりまく状況から本校の存続は必要であること。そしてそのために、教育内容の魅力付け(例えば田原学の開講、認定資格取得科目を増やす等)、地域貢献策の拡充(例えば出前講座や小中高生を対象とした福祉教育支援等)、持続可能な学校運営(例えば定数の減等)の柱立てをし、アクションプランを策定したところです。皆さんが「たつぶく」卒業生として自信と誇りをもてるよう現スタッフで力を合わせて努力いたしますので、皆さんにおかれましては、一層のご支援ご協力をお願いいたします。

この人に聞く

第11期生

濱 英里奈さん

今回は、十一期生の濱英里奈さんにインタビューさせていただきました。

濱さんは高校卒業後、四年間色々な仕事を経験したのち、田原福祉専門学校へ入学しました。卒業後は知的障害者更正施設に就職し、一年が経とうとしています。

そこで、濱さんに実際に現場で働いて思った事など聞いてみました。

介護の道に進もうと思ったきっかけはなんですか。

私の家は核家族なので高齢者と接する機会がありませんでした。

二十一歳の時、サーファーの友達に誘われて始めた接骨院でのアルバイトで、高齢者と出会った事が私が福祉の道に進もうと思ったきっかけでした。

接骨院を訪れる方のほとんどが高齢者でした。私が元気がない時には「今日は元気ないなあ。」と、すぐに異変に気付かれました。さすが、私よりも長く生きているだけのことはあるなあと驚かされました。しかし、

患者さんの中には、資格をもっていない私に対して「資格をもっていないなら、私の体に触らないで。」と云ってこられる方もいました。仕事ができ、患者さんに人気があっても資格がなければ、この社会はやっていけないものなのか？と悩みました。プライベートで人に裏切られた事もあって、この先、自分の人生失敗したくないという思いもありました。だったら、社会のルールに従って資格をとってみようと思い、田原福祉専門学校に入学しました。

介護に進んだきっかけはお年寄りだったのに、知的障害者の施設に就職したのは何故ですか。

一年生の実習で行った重症心身障害者施設での経験が大きいですね。

そこで出会った利用者の方々は、健常者の自分が考えられないような事をするので、その方の今の心境はどうなっているのだろうか？と興味をもちました。それまでの実習や演習では、高齢者の施設しか行ったことがなく、障害者に対する知識が少なかつたため分からない事だらけでしたが、だ

からこそすごく興味がありました。

また、普段私たちが生活している日常ではあまり見かけないことではないのに、実習などで施設を訪れてみると沢山の障害者の方々がそこで生活されています。何故、施設に隔離されているのか？私は疑問をもちました。

私が思うに障害をもっている、みんな同じ普通の人間です。

高齢者施設で働くことは、お年寄りと接する事で自分自身が和まされたりしますが、今の私は障害者の方々と一緒に過ごす時間がとても楽しいのです。

介護福祉士の資格をもっている事でプラスになった事はありますか？

資格をもっていなかった時は、今の私には何が出来るのか？など将来に対する不安もあつたけど、資格をもった事で自分がどこへ行ったとしても通用するのではないかとという自信ができました。

『介護福祉士』という資格を取った事よりも、田原福祉専門学校で過ごした二年間、その中で学んだ内容の方が大きいですね。

実習や演習などで実際の現場を見て、色々と考えさせられ、こうい

考え方もあるんだなあと自分の世界が広がりました。そして、なによりも自分自身と向き合えるようになり、人間的に成長する事ができました。

今までの自分は、目先の事ばかりにとらわれていたけど、二年間の学校生活や経験の中で、相手の事を知りたいと思う気持ち、より相手を思いやる気持ちが強くなりました。でも、仕事が忙しくて自分の気持ちに余裕がない時は、相手を思いやる気持ちを忘れてしまします。つい、ちよつとした事でも怒ってしまい、後になって「なんであんな事言ってしまったのだろう。」と反省することがありますね。

実際に現場で働いてみて思う事は？

「この利用者さんに良い支援をしてあげたい！」という理想と、自分が出来る事の現実の違いは大きいですね。

利用者さんのためを思ったら、外出させてあげたいが、上の人の許可がないと実行出来ない・自分のプライベートの時間を割いて利用者さんに付き添わなければならないなど、色々な面で理想と現実との差を感じます。ですが、そんな中で利用者さんの笑顔が少しでも見られると「あ

あ、やって良かったな。」と思います。
私は、受け持ちの利用者さんが書いた日記の感想を書いています。私の返事の内容によって、次の日記に具体的な内容が書かれていたんです。一歩前進ですよー！

そこで、利用者さんの成長はスタッフの関わり方次第なのだと思ってきました。全ての事をしてあげるのではなく、自分が工夫をして少しでも出来そうなところはやっていただくようにしたり、やれるようなきっかけを作るようにしています。

平成十八年に『障害者自立支援法』が施行されたこともあり、更正した人は施設を出ていかなければならなくなりました。その方が社会に出て一人て生活していけるように支援しています。

日本の社会を、障害をもっている人たちが働ける社会にしていかなければいけないと思っています。それは、周囲の人たちのフォローが必要だという事であり、誰かが支援してくてはいけない事だと思います。

介護の仕事は、給料が少ない事は不満だけど、利用者さんの日々の成長や笑顔を見るとやりがいのある良い仕事だと思っています。

ずっと介護の仕事が続けようと思えますか？

介護の仕事を一生涯ととは思わない。



もしこの先、自分が他の事に興味をもつたら、違う職業へ進むかもしれません。

自分が『やりたい！』って思った時がチャンスです。

では、現場において、同姓介助で気を使う事、同姓だからこそ良いなと思った事は？

普段の生活は1階と2階で男性・女性と分かれています、作業や食

事はみんな一緒のフロアです。

その時に、男性の利用者さんが女性スタッフに抱きついたり、お尻を触ったりする事があります。

女性の利用者さんの中には、異性や性的行為にとっても興味をもっている方もいます。

性的な事に興味がある方・ない方の差はありますが、若い方たちが一緒に生活する事を考えると配慮が必要だと思いますね。

女同士だからこそ出来る話もあるので、そういう面は良いですね。

濱さんは観点や考える事が少し他の人と違うように感じられますが、今の自分にたどり着いた大きなきっかけがあったら教えてください。

そんなことないと思います。普通ですよ。

今の私には、これぐらいの考えしかできないです。

これまでの人生で色々な事を経験して、自分の中でこれが正しい方法なのかな？と模索して今に至りました。

その中で、一番に思っている事は、相手がどういふ風な思いをしているかを考えて接するようになるということです。

濱さんを支えてくれている人たち

へ一言!!

自分はわがままな人間です。それでも、そんな自分と付き合ってくれている人たちにすごく感謝しています。ありがとうございます！

今後について。

まだ就職して一年足らずで、自分自身がとても未熟だと感じています。本当は、勉強らしい勉強はしたくないけど、客観的なものの見方をするために勉強も必要なのだと思います。

私たちが介護士が出来る範囲は限られています。日本の社会が変われば、今よりもっと良い介護が提供できると思います。

今は、与えられた状況の中で、よりよい支援をしていきたいです。

学校ニュース

平成21年の新入学生から定員を40名に変更します。

法改正に伴い、新1年生からのカリキュラムが大幅に変更。

学生寮使用料が改定される見込み是非ご活用下さい。

卒業生にインタビュー 3 期生 小林健一さん

Q1、たつぶくを卒業して九年になりますが、今振り返ってどうですか？

時がたつのも早いもので、もう9年もたつちやいましたねえ〜(笑)。今思えば、専門学校が懐かしく思えますわあ。学校に入学した時は男性に比べて、女性の割合が多くて怯んだのを覚えてますよ〜ワラワラ。まあそんな環境にもすぐに慣れましたけどねえ。だあ〜けど勉強と実習には苦勞させられましたわあ。勉強なんてよつぼどしてなかったから、テスト前に彼女に教えてもらいながら勉強したのを今でもはっきり覚えてるし。特に概論がまつたく出来なくて、なけなしの金を握り締めて再試ばかり受けてたなあ(泣)。実習なんて最後の三段階に、当時、学生内でメッサ敵しいと有名だった某施設に行く事になつちやつて、まぢ意気消沈で、毎日チンチンになりながら実習行つてましたよあ〜(泣)。そんな時には何回学校を辞めてやるつと思つたことが。今となつてはそんな時の実習の成果が役に立つてるけど、

まぢ辛かつたわあ。

で、今はあつみの郷でドS介護士として働いてんだ。毎年新人で「たつぶく」の卒業生が入つてくるんだけど、これがナイスキャラばつつかでまぢウケるし(笑)。あいかわらず、自分が学校に入つたときみたく、個性的なキャラが多くいるのかなあと思つと、またまたウケる。でも、皆いい奴ばつつかだつたなあ(懐)。

Q2、十一月に看護学校に合格したと聞きましたが？

ええ。まあ、現在の社会情勢で福祉は重要視されてはいますけれど、介護士の地位、給料、待遇等はまつたくなされていなのが現状だと思つています。

また介護福祉士の資格については、無資格でも三年間福祉施設等で働いていれば受験資格が取得出来るという点でもわかると思いますが、介護そのものが軽くみられてるんじゃないかな。特に、老健みたいに病院と一緒になつてるとこだとそれを痛感します。看護師は偉くなれば、

看護師長。介護は？ 多分主任くらいじゃないのかな。あと字をみても一目瞭然でわかると思いますが、看護は看護師。介護は介護士。最後の、師と士。字ですら差がつけられていました。そんなこんなで色々葛藤していた時もありました。

まあ、いやらしい話だけど、介護と看護だと給料にだいぶ差があるから、以前から考えてた看護学校を受験したら、合格しちゃいました。たつぶくの時は劣等生で、脳も勉強から離れて長いこと経つていたけど、一日一時間五日間の勉強の成果が出て、ヤマも当たつて、思つた以上に

できちゃいました。運も実力のうちなのだ(笑)。というわけで四月からは学生です。

Q3、サッカーが好きだと聞きましたが？

はい。はつきり言つて大好きです。看護学校受けたのも学生になれば、今よりサッカーが出来ると思つたからです。実習が始まつたらそつはいかないけどね。で公式戦に初めて出たのは、たつぶくのチームだったんだよ。もうないけどね。今は、でかい組織のチームに入つていて、田原リーグに加盟してるんだけど三チームあります。

うちの組織は、レベルに合わせてチーム編成していて、特に育成に力を入れていきます。初心者でも募集しています。インターネットで田原市からアクセスしてもらえば、ACBRUXERAつてところがあるからそこにメールを送つてもらえればOK、返事がきます。多分、東三河の中では一番でかい組織だと思います。まあ、宣伝みたいですけどおもいつきり宣伝です。メール待つてまーす。みんな、サッカーやるつぜ。



学校行事紹介

公開講座

平成 20 年 10 月 20 日 (月)

『生きる力とコミュニケーション・スキル』
講師：コミュニケーションセラピスト
カニングハム久子氏

今年もまた、先生の講演会を開催することができました。毎年先生の講演を楽しみにしていらっしやる方も多いというのが納得できる、力のあるお話を聞くことができました。

現代社会で欠けてきている、しかし大切なもの・・・コミュニケーションのスキルを磨いて、スムーズな人間関係を構築するために有意義なアドバイスをいただきました。

公開講座とシンポジウム

平成 21 年 1 月 17 日 (土)

第一部 公開講座

『笑いとともにある暮らし』

講師：笑う介護士 袖山卓也氏

第二部 シンポジウム

『現場が求める介護人材』

コーディネーター

田原福祉専門学校運営協議会会長

原田雅司氏

シンポジスト 田原福寿園 松井幸子氏

あつみの郷 横村和博氏

田原社協 藤田幸伸氏

可知病院 松原宣子氏

第一部では、笑う介護士、袖山卓也氏をお招きし、自らの経験を踏まえた中からの力強いお話をお伺いすることができました。現場の介護士さん達が、日々忙しくて、心をなくした状態ではなく、三大介護である「食事」「排泄」「入浴介助」を行うだけでなく、利用者さんの目線にたった、相手を思いやる気持ちが大切だと。介護現場だからこそ味わえる「感謝」「感激」「感動」の気持ちを重んじていらっしやるご自身の思いが伝



講演する袖山卓也氏

わってきて心に響く講演でした。

参加者からは、入学当時の想いや、介護職としての原点を見つめなおすよい機会であったとの感想をいただきました。

第二部では、市内の福祉現場に携



マイクを持つ松原さんとシンポジストのみなさん

わる方からの、現実味のあるお話をお伺いできました。

現場で求められる職員として、聞いている学生も就職への心構えができたのではないのでしょうか。

同窓会会長の松原さんもシンポジストとして参加され、卒業生の立場から、学生への厳しい注文もされました。

学生寮 探訪

田福ちちぶの魅力のひとつ、「学生寮（女子寮）」に足を運んでみました。

開校当時と変わらない外観と建物の中の様子も、ともに充実していました。

管理人さんは、遠方から入学された親元を離れた学生さんが、少しでも環境に慣れ、安全に過ごす事ができるように心配りをしてくれ、登校時や下校時には声をかけるようにしているとのこと。日常の疲れなども見逃さずにフォローしてくれている様子が伝わってきました。



居室



和室



多目的ホール



ランドリー



外観

同窓会発足 にあたって

同窓会会長 松原 宣子

昨年五月に後援会が解散になり、同窓会が設立されました。後援会においては11年という長い間、学生たちのサポートをして頂き感謝しております。

そして、今年の5月からは後援会が行っていた事業を引き継ぎ、はじめての同窓会総会を開くことになりました。卒業生も800人以上となり各地域の介護施設などで活躍されていることだと思えます。

しかし、介護福祉士の資格を取っても労働条件や賃金での冷遇などから、現場を離れ他職種に移っている方も多いのではないのでしょうか。また、結婚や出産で離職する方もたくさんいると思えます。

現在、高齢社会で介護を必要とされている方は増加しているのに介護をする人は減少しています。では何故減少しているのでしょうか。皆さんはどう思っているのでしょうか。私たちもいつかは年を取り介護を必要とするときが来ると思えます。そのときにどこでどんな介護をしても

らいたいかを考えたことがありますか。これからの介護を介護士自身が考え作りだしていけたらいいと思います。

同窓会では皆さんといるいろいろな話ができる場を設けたいと思います。

私も介護士として一〇年働いています。でも、自分が介護を必要とするようになったとき、今の介護現場で受けたいとは思いません。今、自分がいる現場で十分な介護が出来るとは思いません。少ない職員での介護、利用者の要望に答えられない環境、終の棲家となる場所の選択が出来ないことなどからです。私としては、もっと人間らしい介護を受けながらも社会と関わっていきたいと思います。痴呆になったら社会と隔離されるのではなく、どんどん地域にでていける環境が出来ればいいなと思います。皆さんはどう思いますか。

昔は井戸端会議というものがありませんでした。井戸の周りで世間話をしていました。同窓会は井戸端会議のような感じでいきたいと思えます。自分のことや仕事のことなど皆で話し合つ中で、これからの介護に役立てるヒントなどが出てくれれば新しい介護の道に繋がっていくのではないかと思います。5月の同窓会には多くの卒業生の参加をお願いします。

お知らせ

同窓会総会

1. 日 時／平成 21 年 5 月 17 日 (日) 午前 10 時から
2. 集 合／田原福祉専門学校



学校だより

職員
紹介



(転入)
事務局長兼学生課長
大根 義久

『袖振り合うも多生の縁』という諺がありますが、人と人とのつながりほど不思議なものはありません。私も学校に異動しなければ、学生たちとは永遠に知り合うこともなかったはずで、こうした運命的に出会った人間関係を大事にしたいと思っています。

私自身、当初、多少の戸惑いもありましたが、そんな中、年末に募集定員の削減が報道され、学生から「この学校大丈夫。」と心配そうな顔を見せられると、「まずい。この子らのためにも、絶対に譲れないという確固たる信念でやり通さなければ。」と奮い立たせてくれたのも、心優しく、素直な学生の笑顔でした。あと僅かで、そんな二年生との別れが来ようとしています。彼らには、常に自ら新しいものをよび起しつつ、成すべきことを成していくという態度を忘れず、熱意を持って事に当たって欲しいと思います。論語の中に『基立ちて道生ず』という言葉があります。これは、何事

も基本が大切で、必ず道は開けるという意味です。介護現場は、正に福祉の原点であり、そこへ進むとうとする学生には、単に技術や知識のみならず、魂、『福祉の心』を身に着けるよう努めて欲しいと願っています。



(転入)
専任教員
桑山 和子

六年ぶりのたつぶくは、実習先で出会う卒業生の活躍を目の当たりにし、大変うれしく頼もしさを感じました。

学校生活の中では、懐かしさに浸るまもなく新しい環境として戸惑うことも多くありました。その中で救われたのは、二年生の受け入れようとしてくれていたやさしい姿勢でした。社会の岐路にたつた皆さんにとって十分な対応ができたのか不安が残ります。これからの人生、困難な出来事がいっぱい訪れます。そのときには「来た来た!」と待ち構えるくらいにまず気持ちから向かってください。そして、その方法を考え乗り越えることが大切です。そのために、自分と周囲にいる人を大切にすることを心がければ、山あり谷ありな人生も、味わいのあるものになると思います。



(転入)
主任
渡邊 康統

入学式から早いもので卒業式の時期を迎えることとなりました。ここでは、今までの仕事で体験できない貴重な時を過ごすことができました。その中でも、仕事で忙しいとき、日々成長し続ける学生の皆さんとの会話から、「笑顔」や「勇気」そして何よりも「元氣」をいただき、ここまで頑張ることができました。ちょっと若返ったようにも思えます。

卒業する皆さん、社会人として旅立つわけですが一つお願いです。仕事に追われ、我を見失うときがあると思います。その時は、今の「笑顔」を思い出してください。自分の中でふと気がつくことがあると思います。近況報告など、いつでも学校にお寄りください。お待ちしております。

在校生の皆さん、些細なことでも結構ですので、心配事など、いつでも相談してください。それが、私の仕事ですから。

卒業生の皆さん、同じ目標を持ち同じ時を過ごした本校は、皆さんの学校です。今後とも「たつぶくサポーター」として、この学校を盛りたてていきましょ。『頑張るぞあ』

後援会から同窓会へ

前後援会長 林 和彦

学校創立に併せて設立された後援会もその役割を終え、平成二〇年の総会の承認を得て、静かに幕を閉じました。

繰越金その他一切を同窓会にバトンタッチし、新しい活動に期待します。そして、閉幕に際して後援会設立発起人代表富田雅則氏、八年間も努めて下さった初代会長川澄春男氏の労苦と功績に深甚なる感謝の誠をささげます。

開校当時は、志願者も多く、全国から学生が集まりましたが、十数年間の社会の変動は大きく、少子化や福祉関係学校の乱立などで、志願者が激減し、学校運営の厳しさが増大しています。

高齢化社会の現出と要介護者の増加は確実なのに、介護の現場で働く人は不足しています。待遇の問題が最大の原因でしょうが、これは、政治の貧困にその根源があります。

同窓会発足を機に、田福の卒業生が、もっと母校愛に燃え、同窓生の絆を大切にして、福祉の現場を改革し、活躍することを切望します。

たっぴく ティールーム



オーナー 山下宏雄
お客様(敬称略)
松原 宣子 嶋本 成子
比嘉マリサ 菅沼 綾香
太田 希 中尾 友美
中神 翼 伊藤 聖佳
横村 由香

④ きょうは、一期生から十一期生の卒業生が集まっていただき、近況報告や情報提供など、思い思いのおしゃべりをしてください。たっぴくの新たな活用手法や魅力づくりについて活発な意見を出して下さい。二一年度から定員が変更となるこの母校への熱い想いを語って下さい。

- ⑥ 立派な建物といるような設備があるのに、みんなにもっとたっぴくを利用してもらったらいいのに。男の料理教室なんか開いたら？結構受講者がいると聞く。
- ⑦ 子供連れの人・小学生・誰でもいいし、直接の利用者でなくても、地域のコミュニケーションの拠点として介護以外のことに学校を利用してもらうのもいいんじゃない？
- ⑧ デイサービスをやってもいいと思うし、学生の実技授業にもなるよね。実習にわざわざ行かなくてもいいしね・・・みんながウロウロしていれば。
- ⑨ ここに高齢者がいれば、普段美



- ⑩ 実践で触れ合っことが出来るよね。
- ⑪ 法律も改正され、介護福祉士はコミュニケーション能力がより一層必要と言われているしね。
- ⑫ 実習に行ってもコミュニケーションが苦手な子も多い。普通の事ができない学生が多い。こういう施設を利用して日常的にコミュニケーションできたらいい。
- ⑬ 介護福祉士は生活の援助をする

べき専門家。その人の生活をみて、相手と話したりしてみても、相手のし欲しいことなどがわかるには実践

⑭ 学生時代から現場実践で力を付けていくことが就職後に役立つんだよね。

- ⑮ ボランティアなども、実習と関係していたり、友達と一緒に年に4回行ったりしているけど、ここにそういう施設があれば、わざわざ行く必要も無くなる
- ⑯ 介護士を目指しているのに、最近の子にはコミュニケーションがとれない子が多い。相手に興味をもち話することが大事で、それによって相手が見えてくるものもある。
- ⑰ 携帯電話もコミュニケーションが欠ける原因かも？

④ 目の前にいる人の方が重要なはずなのに、すぐ電話を使う。

- ⑱ 授業中でも勉強も真剣になれないと使っちゃう学生もいるもんね。
- ⑲ でも成績がよかった子が現場にでると役に立つとは限らない。
- ⑳ 成績の悪かった子の方が、機転が利いたりする。
- ㉑ 友達と遊んでる子の方が、人の気持ちを探るとか、周りが読める能力に長けていたりする。外にでたらフットワークが全然違う。
- ㉒ たっぴくをもっと利用してもらおうと思うんだったら「学校」を意識しすぎなくていいのでは？地域の

人が誰でも来られる開放された施設

⑳ 思い切って週一回でも開放したら、最初はひとり、ふたりから・・・でよいと思う。

㉓ オープンカレッジのように学生と福祉文化活動のような中で交流ができる仕組みができないか？

- ㉔ 高齢者の方が来てくれればなおさら、学生にとってコミュニケーションの仕方がわかる。
- ㉕ 少子化になって、学生数も減ってきている。色々なことをやらなければだめ。待っていてはだめ。
- ㉖ 大人の生徒に無料で解放するような姿勢が大事。決まりきった堅苦しい講演でなくても、ここでしかできないようなカリキュラムを工夫し、「一緒に居る」はんを作りましょう。みたいなテーマで料理教室、りんこの皮むき競争や、包丁研ぎなどを男性から教わるなど、難しいことは言わずにやってみる。

- ㉗ 学校というイメージを変えること。せつかく市が経営しているのだから、他の私立では出来ないことをやって、地域の人が魅力的な学校だと思ってくれるようにしないとね。それが学生数の増加にもつながるんじゃない？
- ㉘ 福祉文化活動などの陶芸教室、農業などを地域の人と一緒にやって、地域に根付いていかないとね。